

お知らせ

<2008年4月から2013年7月までに川崎医科大学附属病院呼吸器外科において

原発性肺癌に対して手術を受けられた患者さんへ>

研究課題名：肺癌根治手術における周術期抗血栓療法への適応と安全性に関する検討

近年の社会の高齢化に伴い、私達が治療をさせていただく肺癌患者さんにもご高齢の患者さんが多くおられます。ご高齢の患者さんのほとんどは複数の疾病を有しておられます。こうした併存疾患の中で、肺癌手術において大きな問題となるのは心疾患や脳血管疾患です。これらの疾患では、血栓の形成（血管内で血液が固まり、血管が詰まること）が症状の悪化の原因となることが多く、その治療・予防のために血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬・抗血小板薬といいます）を内服している場合があります。手術をお受けいただく場合には、麻酔処置や手術中の止血のためにこれらの抗凝固薬・抗血小板薬を一時的に中止することが必要です。しかし、これらの薬剤の中止により術中・術後に血管内に血栓が形成され、心疾患や脳血管疾患の悪化を来すことが危惧されます。

私達は、2008年から、こうした心疾患や脳血管疾患を有する患者さんに対して肺癌手術をさせていただく場合の、抗凝固薬・抗血小板薬の継続・中止について院内で基準を設けて、その取り決めに従って手術および術後管理を行っています。こうした私達の手術管理が適正かどうかを判断する必要があります。具体的には以前の診療記録（カルテ）より必要な情報を収集して行う検討で、抗凝固薬・抗血小板薬の中止・継続が、手術や術後経過に及ぼす影響を検討します。

本研究に同意されない方は下記連絡先までご連絡をお願い致します。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では研究資金は発生しないため、このような利益相反の状態にはなりません。

なお、この研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得ていることを申し添えます。

問い合わせ先：川崎医科大学附属病院呼吸器外科 最相晋輔

電子メール：gts@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111) 呼吸器外科学実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124